

所属・資格 体育学科・特任教授

申請者氏名 水落 文夫

研究課題		ハイリスクの競技状況における利得-損失の注意喚起とプレー選好の関係について
報 告 の 概 要	研究目的 および 研究概要	無謀ともいえるハイリスクなプレーを選択して自滅する選手が少なくない。本研究は、プレッシャー下の運動パフォーマンス低下について、運動執行段階（プレー自体の精度低下）ではなく、その前段階の意思決定プロセス（非合理的なプレー選好）に注目している。不確実性が高いスポーツ競技の状況では、競技ストレスに誘導された認知処理機能によって非合理的な選択的注意、判断、意思決定を行うことで無謀なプレーの選好が多くなると考えられる。そこで、スポーツ競技を想定した競技ストレス負荷を伴うハイリスクなプレー選択の場面を実験室に再現し、プレーによる損失/利得への注意喚起と、プレー選好にみられるリスク追及傾向を評価する。運動課題は目標停止位置に対するボッチャ投球であり、フレーミングによる損失への注意喚起により、プレー選好においてリスク追求傾向が高まることを検証する。
	研究 の 結果	太田ら（2016）を参考に、ボッチャボールを3m先の「目標位置」に停止（300点）させるという運動課題を用いた実験室実験を行った。20試行の投球データの正規性は23名の被験者のほとんどで確認できた（平均値302.4cm）。そのため、正規性が確保された投球停止位置の平均値は、プレー選好にみられる個人の意思決定の結果と捉えられた。そして、20試行の投球停止位置のデータから、3mを超えると0点というリスク状況を設定したときの、合計得点を最大化するための各被験者の「合理的停止位置」が数理モデルによって算出された。次に、このリスク状況において10試行を投球させたところ、損失フレーム群は利得フレーム群より合理的停止位置を超えて3m目標に近い位置に停止させており、リスク追及の傾向が強かった。そして、各変数間の相関分析から、リスク追及度と直観性能力（情報処理スタイル尺度〔内藤ら、2017〕で評価）および低活性・不快の感情（感情状態尺度〔水落ら、2018〕で評価）で正の相関関係、リスク追及度とパフォーマンス得点（10試行の合計得点）で負の相関関係が認められた。
	研究 の 考 察 ・ 反 省	利得と損失のフレーム群のいずれも「合理的停止位置」を超えた位置に平均値があった。リスク状況におけるパフォーマンスを最大化する合理的な参照基準が提示されても、自分の動作調整能力に対して、動作の正確性を過大評価するバイアスが潜んでいる可能性がある。この系統的バイアスによるリスク追及度が過度になるとパフォーマンスの低下を招くようである。そして、利得に対して損失への認知誘導が、プレー選好におけるリスク追求を高めることが明らかになり、さらに、リスク追及に対して特性的な直観的思考およびその状況でのネガティブな感情状態の関与が推測された。特性的な思考スタイルは、感情を介してリスク追及傾向に影響するかもしれない。今後は、十分な検定力を得るためのサンプルサイズ確保、および競技ストレス負荷を加えた実験手続きの確立を行いながら実験を継続する。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会「損失/利得の状況認知がリスクの高いプレー選好を誘導する」2024年8月29日/福岡（福岡大学）</li> <li>日本アプライドスポーツ科学会第4回大会「リスク状況において損失/利得の認知で誘導されるプレー選好の変化」2025年1月25日/東京（日本大学）</li> </ul>	